

丹波篠山市東部六地区と複数大学で臨む地域連携活動

～「ふるさとミライカレッジ」への道～

環境人間学部

○教授 ^{すぎやま たけし} 杉山 武志

キーワード

地区間連携, 地域再生, 地域連携活動,
大学間連携, 丹波篠山市東部 6 地区



研究概要

1999 年 4 月に「平成の大合併」第 1 号として誕生した篠山市（現丹波篠山市）は、2022 年 4 月に旧篠山町域が「新過疎法」に基づき一部過疎指定を受けた。篠山町域のなかでも 1975 年 3 月まで存在していた城東町（日置地区、後川地区、雲部地区）と多紀町（福住地区、村雲地区、大芋地区）、すなわち丹波篠山市東部 6 地区は、丹波篠山市内でも人口減少と高齢化が顕著となっている。人口急減の状況のもと、地元のアクターたちは、地区単位で地域課題解決に臨むだけではなく、旧町時代のよしみである 6 地区のゆるやかなつながりを再構築したうえで地域再生を推進し、地区間連携の発想をもって一部過疎指定からの卒業を目指している。

地域側が地区間連携でスクラムを組んだことに対して、東部 6 地区の地域再生に携わる兵庫県内の大学は、いくつかあったものの相互に交流する機会が少なかった。広域なスケールを俯瞰できるダイナミックな地域連携活動を展開するため 2024 年度に東部 6 地区に関わる大学間連携の下地を築き、大学間連携も視野に入った総務省「ふるさとミライカレッジ」に丹波篠山市を申請主体として、地元の地域づくり会社、丹波篠山市東部六地区協議会、県内 5 大学の研究室等（兵庫県立大学、関西学院大学、関西国際大学、神戸学院大学、武庫川女子大学）が連携して応募、2025 年 5 月に一次募集で採択された。

今回の発表では、本研究概要で記した内容に加えて、採択に至った要因と採択後の動きを紹介したい。

アピールポイント



丹波篠山市の位置
(発表者作成)

- ・発表者は、本学着任以来 11 年間にわたって、丹波篠山市東部 6 地区および各地区に研究と実践活動の両面から継続的に携わり続けている。
- ・兵庫県の多自然地域再生政策では、小規模集落単位への支援に加えて、旧小学校区や旧中学校区などの比較的広域スケールでの地域づくりが推奨されている。しかし、広域での地域づくり活動は兵庫県内でまだまだ事例が少ない。本発表のように、地区間連携を通じて地域づくりを行う実証的な研究は希少価値が高く、独自性もある。
- ・さらに、実証的な研究にとどまらず、概念的な研究成果も蓄積して、理論と実証の双方から研究成果を挙げてきたことにも特徴をもつ。
- ・これらの成果の一つとして、総務省「ふるさとミライカレッジ」に採択（9,950 千円）されたこともアピールポイントである（採択を受けた主体は丹波篠山市だが、連携している各大学研究室も国費を通じて地域連携を活発化できるメリットは大きい）。

本研究とも関連する主な研究成果

- ・杉山武志（2025）『ウルトラ・アーバンゼーションの時代—社会経済地理学からの新たな挑戦』春風社
- ・三宅康成編著、太田尚孝・杉山武志・北村胡桃著（2022）『兵庫から地方の新しい未来を探る—地域を創生する 8 つの挑戦』神戸新聞総合出版センター